

令和6年度 学校関係者評価 令和7年度へ向けた改善方策

令和6年度学校関係者評価アンケート結果（5・6年生児童、全学年保護者、地域関係者）、関係者評価委員会からの提言を受け、令和7年度の学校運営に関する改善方策を報告いたします。以下上段は学校関係者評価委員会からの提言、下段（赤字）を改善方策として記載します。

アンケート結果の特徴より評価委員会提言

1) 学習指導について

- ・ 新設項目「学ぶことが楽しい」は85.7%と肯定的な評価の割合は高い。
- ・ アンケート令和5年度対比において、児童、保護者とも微減の項目はあるが、等々力小学校は学習意欲が高まっていると感じるデータ結果になっていることが分かる。
- ・ 等々力小の児童の学習経験は、別の所にもある。
- ・ 教職員同士の雰囲気がいよいことも保護者に伝わっている。この状況を続けていただきたい。
- ・ 6年全国学力・学習状況調査において、東京都(公立)より、正答率が国語で7ポイント、算数で10ポイント高い。

⇒令和7年度へ向けた改善策

今年度も学習指導関連項目は高い肯定的評価となった。保護者「子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。」は、「分からない」除くと、94%の肯定的評価となった。本校が重点としている「様々な事象と向き合い、課題解決を目指して情報収集や協働して学ぶ『キャリア教育』を通して、社会で生きるための資質・能力の素地と自信を培う。」を日々の授業で実践できている成果である。引き続き児童の「探究的な学び」が実現できるようにしていく。しかし、保護者の回答では「分からない」多いため、学校公開等での多数の参加をお願いしたり、指導方法等について保護者会などで丁寧に説明したりしていく。

- 各教科や特別活動を通して、児童が目的をもって活動すること、協働的に学ぶこと、振り返りをキーワードにした授業改善を行うことにより、「せたがや探究的な学び」の充実を図る。
- 学校公開の案内を丁寧にを行う。
- 保護者会等で、実際の授業場面の写真等を用いて、

2) 学校行事（運動会・展覧会・宿泊行事など）等について

- ・ 児童が学校行事を通して、楽しく達成感を得られていることを保護者が認めていると考察できる。
- ・ 等々力小は、活気が感じられる学校になっていると感じる。
- ・ 「本校の教育活動に満足している。」85.2%となり、さらに（分からない）を除くと90.7%の肯定的な評価となる。これは、教職員の児童指導、学校運営において、努力の成果が現れていると考察する。

⇒令和7年度へ向けた改善策

児童が主体的に取り組む特別活動が充実できるように取り組んでいく。働き方改革の視点も考えた取組、カリキュラムの構成を検討していく。

- 委員長会議を中心とした取組を活用し、児童の意見や考えが反映される児童の主体的な取組となるようにしていく。
- 取組の精選、効率化を検討することにより、働き方改革を推進する。

3) 先生について

- ・ アンケート令和5年度と同様、94%と肯定的な評価になり、児童の安心感につながっていると判断できる。

⇒令和7年度へ向けた改善策

引き続き、児童の人権を尊重し、丁寧な指導を心がけていく。

○全員「さん」付けでの呼称の徹底

○頭ごなしに注意や指導をするのではなく、「どうしたの？」から声をかけるなど、丁寧な指導を行う。

4) キャリア教育について

- ・ アンケート令和5年度対比において、児童、保護者とも微増の項目はあるが、保護者回収率が向上しても、同じようなポイントのため、児童の東深沢中学校の見学をはじめ、目に見える取組が必要である。
- ・ 質問文が難しい。将来、何をやりたいか、てはとらえ方が狭い。いろいろなやり方があると思う。
- ・ 今年、校長をはじめ教員から児童への呼びかけとして、「なりたい自分になる」を合い言葉にしてきた。こうなりたいという憧れをもってほしい。
- ・ 上級生に憧れる場の設定を今後も続けていく。
- ・ 夏休みにわくわくスクールとして、保護者や地域の方から仕事の話をしていただくこともアイディアとしてある。
- ・ 遊び場開放委員会を通して、学校内でお祭りを年2回開催（夏まつり、冬まつり）している学校、地域は他にはない。おやじの会を通して、おやじが楽しんでいる様子を見ることができ、おやじの会のように活動したい、という気持ちをもっている児童がいる。
- ・ おやじの会と同様に、祭りに東京都市大学の学生がお手伝いに来ている姿も児童は感化されているようである。
- ・ わくわくスクールや遊び場開放委員会による行事（夏まつり、冬まつり）など、等々力小の児童は人生、人間中心の思考を経験している。
- ・ 保護者アンケートにおいて、「E:わからない」が、20～30%いると、保護者のキャリア（教育）の関心は低いのだろうか。

◎ キャリア教育を通して、進路指導、職業体験のみではなく、「なりたい自分になる」として、夢や身近な存在に憧れをもち、努力することの大事さを考えさせていきたい。「なりたい自分になる」の視点は共感できる。

学び舎を通して、余剰時間数の縮減を図る中、学習内容や行事などのスケジュールが密になる。学校として、みしまの森児童・生徒合同会議の他に、学年交流を模索している。そして、小1ギャップ、中1ギャップの適応できない状態をなくし、スムーズに幼稚園、保育園から小学校の生活へ、小学校の学び方から中学校への学び方へと入れるように連携を図っていく。

また、児童が地域に根差した生活、地域をよりよくしていこうとする心情を育てるための「幼・保・小・中」の学びの継続性を太くしていく。

特に、令和7年度は東深沢中学校への児童の学校見学を計画していきたい。

⇒令和7年度へ向けた改善策

将来の職業像を想像しやすくなるための職業講話等の実施を行うと共に、引き続き、身近な上級生に憧れの気持ちをもつことも「キャリア教育」と捉え交流の場を、カリキュラムマネジメントを行い多く設定する。

○特別活動の充実

・ 幼保小中の交流会、他学年との交流会の実施、兄弟学年での取組の実施

・ キッズ班活動や委員会活動の充実

○学習場面での異学年交流

例) 川場移動教室について5年生が4年生に発表等

○「なりたい自分になる」のキーワード化

5) あいさつについて

- ・ アンケート令和5年度対比において、児童、保護者ともほぼ同数ポイントである。保護者回収率が向上しても、同じようなポイントのため、保護者の思い、印象が変わらないと考察する。また、例年どおり、児童の挨拶遂行の思いと保護者の思いの違いが表れた。
- ・ 地域の挨拶において、保護者が見知らぬ人を警戒している。
- ・ あいさつ運動のジャケットを着用しているときは、子供たちは挨拶を返してくれるが、着ていないときは挨拶を返してくれない。
- ・ 校長として、朝、校門で立っていると通勤する方（地域の方）が挨拶をしてくれる方が現れた。
- ・ 毎月のあいさつキャンペーンの他、6年児童数名が毎朝、自主的に校門に立ち、下級生へあいさつをするようになった。啓発にもなっている。
- ・ 挨拶に関しては、地域の関係性ができていれば、挨拶をするものだと思う。
- ・ 東深沢中学校に対して、現在、よく挨拶をする生徒が多くなった。学びに向かういい学校雰囲気である。
- ・ 子どもたちがこの地域で生活する中で、警戒感と安心感があると思う。その中で、この地域で生活していることに子どもたちが共感できるようになってほしい。
- ・ 地域が学校に関心をもつ視点のひとつが、子どもたちのあいさつである。

◎ コミュニケーションの扉として、挨拶する習慣を自律的に身に付けられるよう家庭と学校、地域で児童を育てていきたい。

⇒令和7年度へ向けた改善策

あいさつに関する取組に関しては、まずは大人の意識向上が大切である。教職員の率先垂範と共に、保護者にも働きかけていく。また、あいさつ運動推進会議との連携を図っていく。

- あいさつキャンペーンの充実
- 「あいさつ・返事・お礼の言葉」の定着
- 教職員による率先垂範
- 委員長会議（委員会）によるあいさつの輪を広げる運動
- PTA、おやじの会、保護者への協力依頼

6) 学校の安全性について

- ・ 令和6年9月以降、電気錠が付き、保護者、地域の方の出入りを1人ずつ確認できるようになった点大きい。
- ・ 三和会を通して、防犯カメラを付けてもらうよう、区に働きかけている。
- ・ 昨年度から、ホームページの更新が多くなっている。学校の様子を随時、分かることが、保護者、地域の方は安心感を与えていることにもつながる。

⇒令和7年度へ向けた改善策

引き続き施設の改修と共に、児童自ら判断して安全に行動できるように働きかけていく。

- 安全点検の実施 施設改修の要望
- けがの多い休み時間の看護当番の徹底
- 「判断力」のキーワード化
- 登下校時の通学路の安全指導の徹底

7) 質問に対する回答選択について

- ・ 「C:あまり思わない」「D:思わない」「E:わからない」において、「あまり思わない」「思わない」の差の基準が不明である。感性の違いなのだろうか。
- ・ 地域の方アンケート結果を通して、「E:わからない」が、質問項目によって、10数%～30弱%ある。これは、細かな点が見えず、分からないのだろう。中途半端では答えられない思いがあるのだろう。

⇒令和7年度へ向けた改善策

学校での様子が伝わるようにする努力と学校参観への周知を徹底する。

○学校だよりや学校ホームページ等の充実

○学校公開、学校行事のご案内を丁寧に行う。

8) 保護者会に対して、「保護者が毎回、しっかり出席するべきである。」の視点が挙がった。

- ・ BOP の保護者会は来たら、子どもの様子が分かり、出席した方がいいと PR したことがある。
- ・ 私立中学校・高等学校は出席率が高い。守秘義務が守られている。
- ・ 保護者の意識を変えていけるような取組が必要なのではないか。

⇒令和7年度へ向けた改善策

保護者が参加したくなるような保護者会になるように検討していく。

○レジュメを読む等だけではなく、児童のエピソードを含め、保護者が来校して直接話を聞いて良かったと思えるような保護者会をめざす。

○保護者同士の懇談が充実できるようにしていく。

9) 図書する意識が低下したことについて

- ・ 子どもたちが夏休み、学童を通して、本に興味を示さなかった。図書室がないことは致命的である。

⇒令和7年度へ向けた改善策

学級増が続いている状況であり、図書室の再設置は厳しい状況であるが、読書活動が充実するように検討を続けていく。

○図書委員会の読書運動の充実

○図書の時間、読書タイムの充実

○図書司書との連携

○とどろき絵本の国との連携

○絵本のコラボ給食の継続

10) 保護者アンケート回収率について

- ・ 保護者の回答率が WEB アンケートによる実施によって、ここ2年間50数%だったため、紙面による回答票を回収することを行った。その成果があり、88.8%まで回収率を改善することができた。

保護者の意識を変える学校評価になったといえる。

⇒令和7年度へ向けた改善策

引き続きアンケートへの回答をお願いしていく。

○スグー配信

○紙面による回答票の回収

11) 総括

(1) キャリア教育を通して、東深沢中学校との交流、体験活動を計画していく。

(2) 保護者の意識を上げていくために、遊び場開放委員会の数多い行事を通して、積極的に参加するようなしかけを検討する必要がある。同様に、保護者会や授業公開のしかけを検討する必要がある。保護者会では報告のみでは、参加率は下がる。

(3) アンケート結果において、「わからない」の回答について、吟味が必要である。保護者や地域の方への周知の仕方が課題なのか、質問項目が的確なのかを来年度、検討していく。来年度は質問項目をすべて学校で立案するため、学校経営方針に沿って、質問項目を検討していく。

(4)本を読む図書室への改築要望については、現実的には、学級減にならないと改築はできない。

本を読む図書室がなく、調べ学習スペースもない。1階のブックコーナー、2階のライブラリーと蔵書場所が2か所に分かれているのは、不便である。落ち着いて図書をする教室、探求的な学びをするための調べる教室の要望をしていくべきである。

等々力小学校の第一にしたいことは、施設大規模改修です、と委員長からいただきました。

この点は、学校だけでなく、保護者、地域と連携して区に要望していきましょう、と会を終了しました。

⇒令和7年度へ向けた改善策

次年度もこの提言を元に、学校の取組を改善していく。また、評価項目が「学ぶことは楽しい。」の1項目のみ世田谷区としての共通項目になるので、学校独自項目の検討を行い、学校経営方針の充実が図られたのかが分かるようにしていく。

○これまでの提言をもとに学校経営方針を修正する。

○学校関係者評価項目の精選を行う。